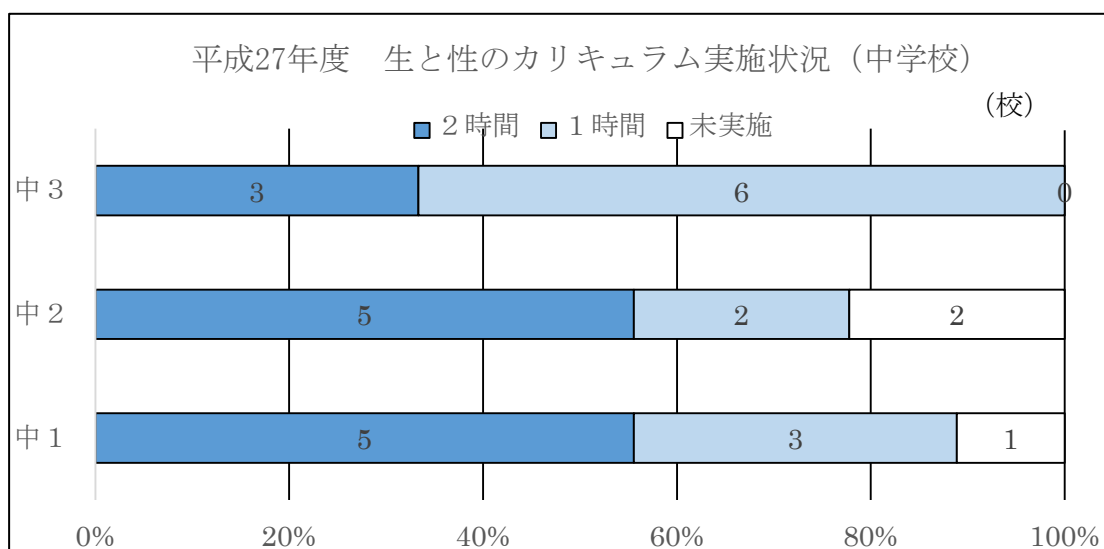
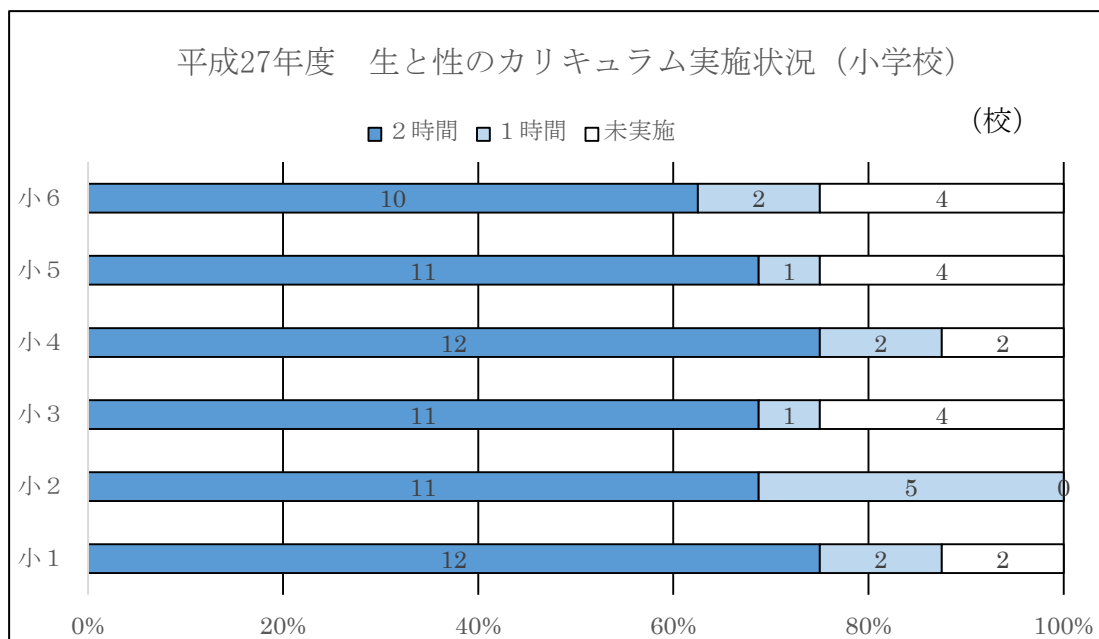


報告(3) 生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版＝の推進
「学校における取り組みについて」

1 平成27年度 「生と性のカリキュラム」授業実施状況



○生と性のカリキュラム通り、全学年2時間実施している学校は、小学校10校（62.5%）、中学校4校（33.3%）で、昨年度の小学校9校、中学校0校より増えている。保健学習や道徳、専門家の指導と関連させて行っている学校もみられる。

○授業実践が充実している学年とやや手薄になっている学年があり、学校格差もみられる。

○保健センターと連携して行っている小2年と中3年の実施状況はよく、ねらいに沿って効果的に行えたという報告が多かった。

○引き続き管理職や教務主任、学級活動担当教諭はじめ学校全体で大切な授業であるということを理解していただき、各校の実態に合わせながら実践を続けていくことが望まれる。

2 各学校からの意見

<小学校>

小1（生）

○セルフディフェンス講座で専門家の話を聞いた後、学級活動でふりかえりをし、自分の身を守るには、どうしたらよいか復習し考えさせた。担任以外の話は子どもたちに新鮮で印象に残りやすく、とてもよかった。

○「動物ふれあい教室」で動物愛護団体を講師に招いて、実際に子どもの自身の心音を聞かせたり、犬と関わらせたりすることで、命の大切さを学習する機会としている。

小1（性）

○資料が充実してやりやすかった。

○1学期のセルフディフェンス講座と関連させ、2学期末に養護教諭が実施した。

小2（生）

○小1のセルフディフェンスや授業の復習も入れ、1学期末に実施した。自分の身を守るために大切なこととして児童が思い出していた。

○命を守る授業は長期休業前が効果的だと思う。多くの事件が発生している時代なので、低学年で繰り返し指導することは必要である。

小2（性）

○保健センターの方に来ていただき、学校公開で実施した。担任、養護、助産師が連携し、それぞれの分担がありよい。他校から胎児人形を借り、ほとんどの児童や保護者が体験できた。家庭で子どもとの関わりを見直す機会となりよかったと、好意的な保護者の感想が多数あった。

○助産師さんらとともに学ぶ「いのちの学習」は毎年とても好評で、これからも継続して実施していきたい。

○妊娠月数の胎児の大きさを人形で確認したうえで、心音や産まれる体験をし、命の大切さを改めて感じられる内容であった。専門家からの指導は心に訴えるものも強く、今後もぜひ継続していただきたい。

○命の始まりはとても小さいことや、お腹の中でだんだん大きくなる赤ちゃんの様子を見せていただき、子どもたちの印象に残る授業ができた。命の大切さを2年生なりに実感することができた。

○全保護者の8割以上の参加があり、とても好評であった。生活科「ひろがれ わたし」の学習の動機付けにもなった。

○保健センターの方から赤ちゃんが誕生する過程の説明を受けた。保護者から「出産するときのことを思い出しました。これからも続けて実施してほしい」との声があった。子どもたちも自分の存在の大切さを感じることができ、充実した時間だった。

○人形や子宮袋等、視覚に訴えたり体験できたりする教材でとてもわかりやすく効果があった。最後に、「生まれてきてくれただけで100点」という素敵な言葉が印象に残った。親子で聞くことで、親子関係が良好になったり、自己肯定感が育まれたりすることにつながるよい機会となった。

○児童のふりかえりで「ありがとうとおじぎをしてお母さんから出てくる」という記述が多く、生まれ方について印象に残ったようだった。

小3（性）

○昨年も授業を見ている保護者なので、命のつながりや健康の大切さをよく理解していただけた。児童も保健学習と関連づけ、考えることができていた。

○絵カード、写真など、視覚に訴えるものが多く、子どもの興味・関心を高めていた。自分の命をつないできた祖先が一人でもいなかったら自分は存在しないということに自然に気付くことができていた。

○母子・父子家庭の児童もいるので、どうかと考えたが、命を語るうえで父母から生まれるということは大切なことなので、そのような家庭の児童もいるということを念頭に置きながら授業を進めればよいと考えたい。

小4（生）

○セルフディフェンス講座で専門家の話を聞いた後、学級活動でふりかえりをし、自分の身を守るには、どうしたらよいか復習したり、考えさせたりした。

○不審者等に声をかけられたり、危険なことに遭遇したりした場合などは、大声を出す等の対処が必要であること、狙われないためには、一人で行動しないことなどを指導することができた。

○防犯笛など目につくように持っていること等、よい勉強になった。

小4（性）

○養護教諭が授業を実施した。1 / 2 成人式に合わせて生まれた頃の家の人の気持ちを知ることができ、赤ちゃん人形のだっこ体験やリュック体験もあり、よかった。

小5（性）

○生命の誕生について、養護教諭が授業を各クラスで実施し、児童は自分たちの生命の尊さ、力強さを感じ取ることができた。

○2年生の公開授業のようなものを5年生でもできるとよいと思う。

小6（生）

○近年、SNS などによる被害の低年齢化が顕著である中、情報モラルも踏まえた指導ができるのでとてもよいと思う。

小6（生と性）

○1月に身体測定を入れて2時間の授業で実施した。6年間の内容をもう一度体験を入れてふりかえり、心と体の健康、命の大切さ、これからの生き方、人間関係などについて、小学校の保健のまとめの授業として実施している。「保健の先生からの授業はこれで最後」と伝え、児童の聴く姿勢もよく、真剣に考える姿も見られた。

特別支援学級

○4年生の児童がセルフディフェンス講座を行った後、特別支援学級の他学年の児童にも担任が指導を行った。自分たちの身を守るためにどうすればよいかについて考えるよい機会になった。もしもの時のために繰り返し指導していくことが大変大切だと感じた。

<実践紹介>◎養護教諭が1・2・3・6年に入り、保健センターとも連携し、体験を多く取り入れて実施している。3年と6年は保健学習とも関連づけて実施しているので児童の印象も深い。低学年でも1年前の授業についてもよく覚えており、系統的に指導しやすく効果的であると思う。命について大切なことは、指導案にはなくとも一言付け加え、繰り返し教えていくことが大切だと考える。一年一年の積み重ねにより、指導内容が子どもの中に入っていているのが実感でき、カリキュラムとしてよくできていると思える。

<中学校>

中1（生）

○セルフディフェンス講座で専門家による指導を受けた。

中1（性）

○保健学習で既習の思春期に起こる身体の発達などを振り返ることや、スクールカウンセラーの紹介をすることで、養護教諭の専門性を生かした授業を行った。

○学年の実情に合わせて指導案を学年で検討し、学級活動で担任が実施した。

○担任作成の詩を取り入れるなど、指導過程をアレンジして行った。

○学年集会形式で養護教諭と学年が連携し、実施することができた。生徒の実態に合わせたオリジナルの内容で、笑いあり、学びあり、先生方の愛情がよく伝わる会となった。

中2（生）

○学年主任の計画により、情報モラル指導を実施した。

○KDDIケータイ教室の講師の話聞いた。とてもわかりやすくて的確で、生徒も真剣に聞いていた。スマホ所有率が半数を超える実態もあり、ぜひ身につけさせておきたいことであった。今後もお願いしたいと感じた。

中2（性）

○養護教諭により、学年集会で保健指導を実施した。

○学年の実情に合わせて指導案を学年で検討し、学級活動で担任が実施した。

中3（生）

○自分が生まれてから中3までを振り返り、人とどう関わり、成長してきたかを考えた。生い立ちを知ることで親への感謝の気持ちをもたせることができた。

○自らも手指に障がいをもち、支援用具を開発している「三河のエジソン」こと、加藤源重氏をお招きして講演と意見交換を行った。発明品を間近に見ながら、お話を伺い、障がいをもつ方への理解や、それに負けない強い志の大切さなどについて考える機会となった。

中3（性）

○養護教諭が各クラスで色水実験により性感染症の感染の広がりを考えさせたり、保健学習と関連づけてたりして指導を行った。最後に担任の話を交えた。「いのちの授業」を学年で実施していたため、生徒の印象に残る授業となった。

○保健センターの保健師さんに性感染症の話をしていただいた。生徒のふりかえりからは、保健体育で学習した漠然とした知識が具体的な知識として身に着いた様子がうかがえた。生命誕生のDVD視聴も交え、改めて生命誕生の奇跡や命の大切さを実感できていた。

○保健センターの方に来ていただき、性感染症の感染の広がりを考えさせる色水実験を取り入れたり、養護教諭の話を交えたりして行った。生徒は、興味深く話に聞き入り、活動していた。

○養護教諭が、「自立した大人」をテーマに、色水実験で性感染症の感染の広がりを考えさせるワークを取り入れたり、担任の教師の話を交えたりして行った。ふりかえりでは、自立した大人とは、相手のことを考えることができる人などの考えを書くことができた。

特別支援学級

○養護教諭が担任と連携し、「命の始まり」「自分を大切にする」をテーマに実施した。

<実践紹介>

◎ 3年生で生と性のカリキュラムに替えて、学年の計画により「命の授業」を年間6時間程度実施した。

◎ 「思春期橋シリーズ」として、保健学習とも関連付けながら学年集会での指導を中心に各学年で行っている。

※小牧市母子保健推進協議会において、多くのみなさんが力を合わせ、長年をかけて、この「生と性のカリキュラム」を創り上げてきました。これからの小牧市・日本国・国際社会を支え、知識基盤社会・多文化共生社会・格差リスク社会・持続可能な成熟した市民社会である21世紀をたくましく生き抜いていく子どもたちを健やかに育成するために、合科的・総合的・包括的・計画的・系統的にこれからも継続して指導していきたいと思えます。

※カリキュラムが改訂され、見やすくなった。エプロンシアターなど、すぐに使える教材があり、ありがたい。また、子どもの興味関心も引くことができた。授業はNHKのfor schoolと併用して行った。子どもの実態に合っており、指導がしやすかった。市内統一でDVDなどの教材もあると助かる。